

2022 年8月社長会見

2022年8月3日

1. 営業・輸送概況

2. メタバース事業の取り組み ～「バーチャル大阪駅」の構築～

3. ecoステーション「うめきた（大阪）駅」の環境の取り組み

4. 変化対応力向上に資する勤務制度

詳細

1. 営業・輸送概況

【運輸取扱収入（速報値）】

収入ですが、6月はコロナ前の2019年比で75.7%、7月は70.5%です。

運輸取扱収入（速報値）

	前年同月比			
	収入計	近距離券	中長距離券	定期券
6月	152.1% (75.7%)	156.9% (89.9%)	183.4% (66.5%)	99.3% (95.1%)
7月	130.4% (70.5%)	125.7% (85.9%)	144.5% (62.1%)	105.9% (86.2%)

※実績は直営の速報値。駅などでの取扱高(消費税を含む)を示すものであり、旅行会社での発売分などを除きます。

※ () 内は、コロナ前の2019年同月比。

【新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）】

ご利用状況は、山陽新幹線は、6月が2019年比で67%、7月も同じく67%。近畿圏は、6月が91%、7月が87%です。

今年度は4月以降、緩やかに回復傾向が続く中、新幹線は、7月も、行動制限があった昨年と比べると、多くの方にご利用いただいておりますが、感染者数の急激な増加もあり、ご利用は前月から横ばいとなっています。

先日、お盆期間の予約状況について発表しましたが、その後、8月1日時点で、山陽新幹線が前年比で276%、コロナ前の2018年比で60%となっています。

感染急拡大を受けて、直前まで見極めて判断される傾向があると感じており、状況を注視しているところです。

また、この夏は、「今こそ、関西。キャンペーン」や、岡山・兵庫でのデスティネーションキャンペーン

などの企画も実施しているところです。

さらに、旅の行先をサイコロで決め、目的地に5千円でご旅行いただける「サイコロきっぷ」は、8月1日時点で約10万人の方が購入されており、大変ご好評いただいています。偶然から始まる運命的な旅で、ウィズコロナ下での感染対策に気をつけていただきながら、西日本エリアの魅力をお楽しみいただきたいと思います。

新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）

	前年同环比			
	山陽新幹線	北陸新幹線	在来線特急	近畿圏
6月	212% (67%)	222% (65%)	208% (51%)	147% (91%)
7月	151% (67%)	158% (66%)	152% (53%)	121% (87%)

※実績は速報値。近畿圏は近距離券発売実績の前年同环比。

※（）内は、コロナ前の2019年同环比。

<第1四半期決算の振り返り>

構造改革の深度化とコロナ影響の縮小に伴うご利用の回復により、連結・単体ともに、2019年度以来3期ぶりの黒字となりました。

第1四半期は、概ね堅調なスタートを切ることができたものの、足元では感染症の再拡大や不安定な国際情勢に伴う物価上昇など、経営環境は厳しさを増していることを踏まえ、通期業績予想は据え置いています。

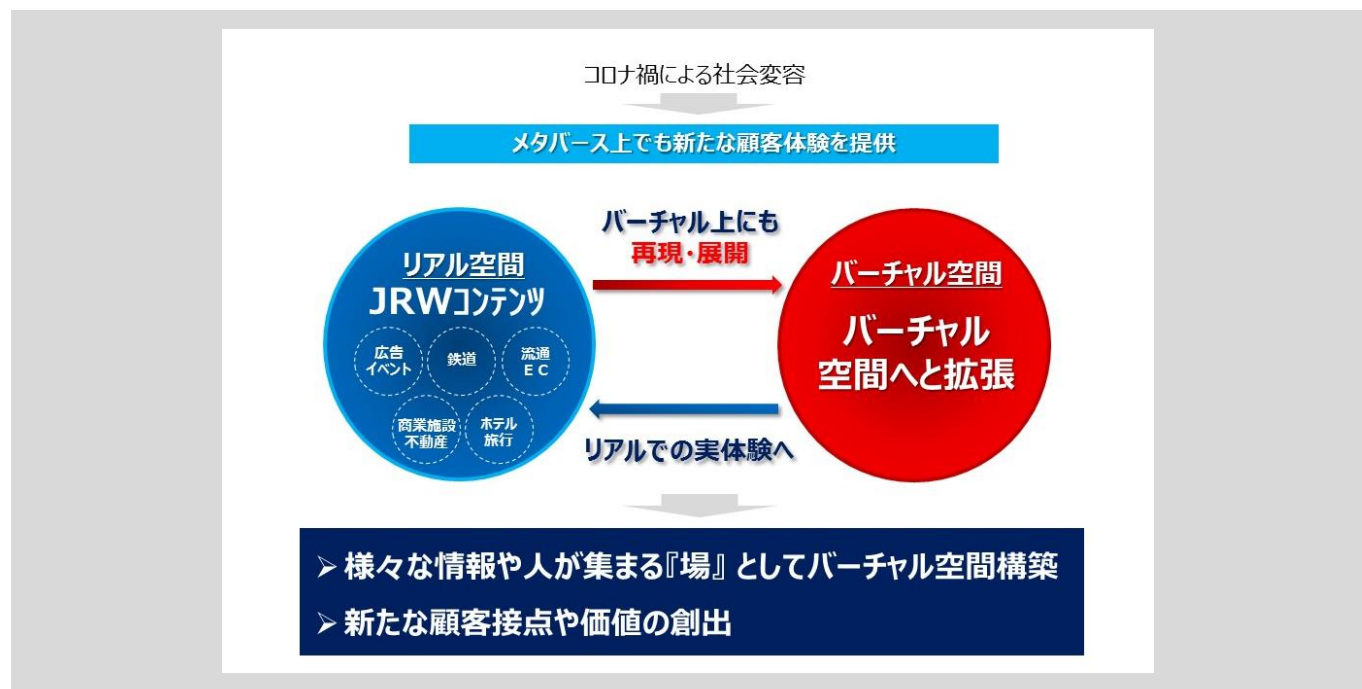
このような状況下ですが、変化対応力向上などの取り組みを着実に推進し、通期での黒字達成を目指します。

2. メタバース事業の取り組み ～「バーチャル大阪駅」の構築～

当社はこれまで、駅の立地を生かした商業施設や駅ビル開発など、様々な事業展開を通じて、駅の付加価値を高め、お客様の生活に密着したコンテンツの充実を図っているところです。

コロナ禍による社会変容で、私たちの生活は大きな変化に直面していますが、これをチャンスと捉え、これまで「リアル」で磨いてきた駅を「バーチャル」へと拡張し、この2つの空間が相互に連動した、新たな価値創造にチャレンジしていきたいと考えています。

そのファーストステップとして、メタバース上の駅として、関西で初めてとなる、もう一つの駅『バーチャル大阪駅』を構築し、世界最大のVRイベントである「バーチャルマーケット」へ出展します。



【関西初『バーチャル大阪駅』の概要】

『バーチャル大阪駅』では、当社グループと「株式会社H I K K Y」様が連携し、駅が持つ主要な機能を、メタバース上に再現するとともに、現実では出来ないような体験を通じて、「リアルの世界を拡張した新たな顧客体験」を提供したいと考えています。

具体的には、メタバース上で、ルクアなど商業施設の出店やEC事業、イベントや広告事業により、メタバースならではのサービスを提供します。

例えば、リアル「時空（とき）の広場」で、「よしもと芸人」の方がライブを行い、メタバース上でもファンミーティングを行います。

リアルと相互に連動したサービス提供

リアルの世界を拡張した新たな顧客体験

出店



アトリウム広場でルクア大阪などがブース出店

EC



3Dになった一部の商品はECサイトで購入可能

イベント



吉本興業の人気芸人ライブ&バーチャルファンミーティング
人気VTuberとのコラボカフェなど

広告



バーチャルならではのダイナミックな広告

※画像は開発中のものです

また、大阪駅を象徴する大屋根を滑り台にした、現実では出来ないアトラクションや、来年春に開業する「うめきた地下駅」に設置する、フルスクリーンホームドアをいち早く体験していただき、特急「はるか」に乗車するなど、リアルを拡張した世界ならではの様々な仕掛けも用意しています。

こうした仕掛けを通じて、海外や遠方にお住まいの方にも、メタバース上で、もう一つの大阪駅の魅力を体験いただき、現実の大阪駅にもお越しいただけるものと期待しています。

現実では出来ないリアルの拡張体験（鉄道×メタバース）

メタバース上で“もう一つの大阪駅”の魅力を体験

駅舎



リアルな駅舎を精巧に再現
大阪駅の象徴である大屋根で「滑り台」体験！

ホーム



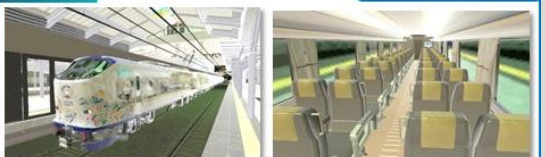
うめきた（大阪）駅で採用
世界初「フルスクリーンホームドア」先行体験！

鉄道設備



人型重機ロボットと鉄道工事用車両を融合させた
「多機能鉄道重機」操作体験！

車両



本来大阪駅に停車しない「関空特急はるか」乗車体験！

※上記体験にはVR機器が必要です。画像は開発中のものです

今回の出展を契機として、自治体や他社様が構築されるメタバースに、当社がバーチャルの駅を出展するといった連携も見据えていきたいと考えています。

また、駅の周辺にも構築範囲を広げ、地域性を生かしたメタバース上の街づくりなど、その可能性を広げていきたいと考えています。

当社が構築するバーチャル空間が、様々な情報や人々が集まる場となり、リアルと連動して、新たな顧客接点や価値の創出に繋がることを期待しています。このような実験的な取り組みを実施いたします。

3. ecoステーション「うめきた（大阪）駅」の環境の取り組み

【「うめきた（大阪）駅」におけるサステナブルなまちづくりに貢献する取り組み】

私どもは、この「うめきた（大阪）駅」を、「環境にやさしいエコステーション」と位置付けておりまして、本日は、「地球温暖化防止」や、「自然との共生」、「循環型社会の構築」を通じて、サステナブルなまちづくりに貢献する取り組みをご紹介します。



うめきた（大阪）駅イメージパース
※関係者協議により今後変更となる可能性があります。

地球温暖化防止（CO₂排出削減）

- 次世代太陽電池による創エネルギー
- 省エネルギー型駅設備
- 再生可能エネルギーの活用

循環型社会の構築 自然との共生

- 使用済みPETボトルの水平リサイクル
- 緑地の整備

【地球温暖化防止（CO₂ 排出削減）】

まず、「地球温暖化防止」の取り組みのうち、「うめきた（大阪）駅」において、エネルギーを創る「創エネルギー」についてです。

今回、広場部分に、フィルム型の、「ペロブスカイト太陽電池」を設置します。

これは、現在、積水化学工業株式会社様が、2025年の実用化をめざして開発されているもので、超軽量で柔軟な最新型の太陽電池であり、設置場所の制約が少ないことが特徴です。

一般共用施設での設置計画としては、世界で初めての事例になるものと認識しています。

今後、積水化学工業様との協働により、さらに他の鉄道施設への展開に向けても検討してまいります。

2点目は、「省エネルギー型の駅設備」についてです。

今回、新たな駅舎では、自然の光を最大限に採り込み、その明るさに応じて、自動で最適な照明に調節することにより、消費電力を削減します。

また、すでに現在も、大阪ステーションシティで活用しておりますが、地域全体で冷温水を循環させてエネルギー効率を高める「地域冷暖房」を利用し、エネルギー消費を低減させます。

3点目は、「再生可能エネルギー」の活用です。「うめきた（大阪）駅」で使用する電力の全てを、再生可能エネルギー由来のものとします。特定の駅において、「再エネ電力100%」とする取り組みは、当社初の試みです。

これらの取り組みにより、「うめきた（大阪）駅」で排出するCO₂の削減効果は、年間約7,000トンとなります。



【地球温暖化防止（CO₂ 排出削減）】

次に、「循環型社会の構築」と「自然との共生」についてです。

まず、PETボトルの水平リサイクルの取り組みをご紹介します。

当社はこれまで、駅や列車から出る様々なゴミの100%近くをリサイクルしています。

このうち、使用済みPETボトルについては、特に昨今、これを再生する水平リサイクルに関心が高まっていることから、当社グループとしても、この水平リサイクルを実現し、リサイクルの品質とトレーサビリティの向上に取り組んでまいります。

このたび、「株式会社サーキュラーペット」様が新たに建設される「PETボトルリサイクル工場」へ、使用済みPETボトルを供給する基本合意を締結いたしました。

まず、2023年度から「うめきた（大阪）駅」を含む、大阪エリアの使用済みPETボトルの供給を開

始し、順次、供給量を増やしていきたいと考えています。

その他、地上広場や、屋上・壁面を緑化することにより、一定のCO₂吸収効果も見込んでいます。

これらはいずれも、来年春の「うめきた地下駅」開業から、2025年春の地上駅ビルを含めた「うめきた（大阪）駅」の全面開業にかけて、順次実施していく計画です。

持続可能なまちづくりに向けて、関係する企業の皆様とともに環境負荷の軽減に取り組んでまいります。

使用済みPETボトルの水平リサイクル（ボトルtoボトル）（2023年度～）

・うめきた（大阪）駅を含む大阪エリアの使用済みPETボトルをPETボトルへ再生するリサイクル工場に供給し、リサイクルの品質とトレーサビリティを向上

※当社グループ初の取り組み



PETボトル



再生PET樹脂

（資料提供）㈱サーキュラーペット



緑地の整備（2025年春頃）

- ・広場の緑地整備（約1,500㎡）
- ・屋上・壁面の緑化（約1,000㎡）
⇒緑地率約30%、CO₂吸収効果約40t/年
- ・雨水の流出抑制効果
⇒舗装時と比較し、約10%雨水流出を抑制

4. 変化対応力向上に資する勤務制度

当社は、「変化対応力を高める企業改革」の実現に向けた基盤づくりに取り組んでいるところであり、多様な人財の活躍と、さらなる成長を支援するため、勤務の一部で他の企業での就労や、休職により資格取得に取り組める制度を導入します。

<「JR西日本グループ中期経営計画2022」見直し>

変化対応力を高める企業改革の実現

既存事業と新規事業の両面において

イノベーションの創出

組織と人財が変化に対応し
成長していくための基盤づくり

- ・不確かなものへの挑戦を促す企業風土の構築
- ・多様な人財が活躍し、さらなる成長をするための支援

「他企業での就労」や「資格取得」に取り組める制度

他の企業で就労できる「サブキャリア制度」では、本社・支社等のスタッフ部門の社員が、グループ内外を問わず働くことができ、業務領域を広げて様々な価値の創出に繋がるものと考えています。

一方、駅や保線区等で働く現業部門の社員においては、鉄道の安全確保の観点から、グループ会社等に限定して就労できることとしています。当社グループには多様な業種の会社がありますので、本業とは異なる業種で働くことで、新たな知識や経験を得ることができると考えています。

また、修学や資格取得に取り組める「キャリア開発休職制度」では、最長2年間の休職を取得し、大学や専門学校への通学も可能なものとしています。

社員が自発的に新しい分野に挑戦し、社内のキャリアプランでは得られない知識や経験を得る機会となることを期待しています。

サブキャリア制度

【スタッフ部門社員】
グループ内外の
幅広い企業で活躍

【現業部門社員】
グループ内の
多様な業種で活躍

キャリア開発休職制度

最長2年間の休職で
修学や資格取得

社内のキャリアプランでは得られない
新たな知識、経験等を獲得

＜国土交通省のローカル線に関する有識者検討会＞

先日、国土交通省の有識者検討会において、「地域の将来と利用者の視点に立ったローカル鉄道の在り方に関する提言」が公表されました。

鉄道を含む地域公共交通の課題を、国の政策課題として正面から取り上げて頂いたことを、大変有難く思っております。関係者の皆様に、鉄道事業者として改めて感謝申し上げます。

公表された「提言」では、ローカル鉄道の現状、これまでの経緯、様々な事例の紹介などに加えて、「今後取り組むべき方向性」が示されました。

ローカル線の課題に対して、新たに、国が中心となって自治体と鉄道事業者と円滑に協議をする場を設置する枠組みの創設など、具体的な仕組みを提言としてまとめていただいたと認識しております。

今後は、この「提言」に示された内容も踏まえながら、引き続き、地域の皆様と課題認識を共有し、それぞれの地域のまちづくりにあわせた、ご利用しやすい最適な交通体系の実現に向けて議論を進めてまいりたいと考えております。

今回示されました、新しい枠組みに関わらず、既に議論の場を設定いただいている自治体様もございます。大変有難く思っているところです。今回の提言で示された新たな協議の枠組みや、既にある地域公共交通活性化再生法に基づく法定協議会、また任意の協議会など、議論の場が色々な形であるかと思いますが、引き続き関係する自治体の皆様と具体的なご相談をしてまいりたいと考えております。

いずれにしても、まさしく今回の「提言」のタイトルにございます通り、「地域の将来」と「利用者の視点」で、どのような公共交通の在り方が望ましいか、未来志向で地域の皆様と議論させて頂きたいと考えております。

＜鉄道運賃・料金制度のあり方に関する小委員会＞

国土交通省の交通政策審議会小委員会より、「今後の鉄道運賃・料金制度のあり方等についての中間とりまとめ」が公表されました。

コロナ禍によって、鉄道事業者は極めて厳しい経営状況に直面しています。

そのような中、多様化するお客様のニーズに適切にお応えするため、柔軟な鉄道運賃・料金の設定が可能となるよう、私どもとしても、要望してまいりましたが、今回の「中間とりまとめ」で、その方向性が示されたことに、鉄道事業者として感謝申し上げます。

今後の制度具体化に向けた議論に期待するとともに、引き続き、お客様のニーズに合わせた商品・サービスの提供に努めてまいります。